

令和6年度 第1回苫小牧市男女平等参画審議会会議録（概要）

- 1 日 時 令和6年6月26日(水) 18時00分～19時05分
- 2 場 所 苫小牧市民活動センター4階 講習室A
- 3 出席者 審議会委員 9名
男女平等参画推進センター長
総合政策部協働・男女平等参画室
(総合政策部長、室長、主幹、主査、主事 計5名)
- 4 傍聴人 1名
- 5 記 者 2名
- 6 会議次第
(1) 開会 (2) 苫小牧市男女平等参画都市宣言文唱和
(3) 議事 (4) 閉会
- 7 議事概要

(議題1) 令和5年度苫小牧市男女平等参画基本計画(第3次)施策別実施状況について

事務局より、資料1、2について説明。

【質問1】

(資料1 項番49) なでしこ就職応援事業の部分なのですが、先ほどITに関する講習の枠が6名に対し36名の応募があったということで伺っていたんですけども、今後やっていくに当たって、例えば、ITの部分をもうちょっと枠を増やそうであるとか、そういう考えは当然お持ちなんですかね。

【事務局回答】

6名の定員に対して36名と大幅に申し込みがあったことを受けまして、一気に増やしてはいませんが、今年度は去年の2倍、12名の定員となっております。

【質問2】

(資料1 項番19) 市長とジェンダーミーティングのところで、10月の「先進的な障がい者雇用について」というところで、23人しか参加していなくて残念だなと思いました。

私もこのときに参加したんですが、内容がとてもよくて、ほかの市民もたくさん参加したらよかったのじゃないかなと、すごく思いました。

なぜなら、この障がい者の雇用に関する内容で、やはり障がい者が生活自立や、家庭を持てるということは職業に就けるということなので、すごくこの内容が私はとても有意義だったと思うし、双葉町の福祉ふれあいセンターや関係機関、コミセンなどでもっとPRして、そして事業主とか、職業に関する方とか、かなりの障がい者の自立を助けてあげられるところとか、それから社会の機構も変わるんじゃないかなと思ったので、もし今後このような取組をするようでしたら、ぜひもうちょっとたくさんPRして市民の方にこういう場を見せてあげてほしいと思いました。以上です。

【事務局回答】

PRに関しまして、障がい者雇用と事業的に関係のある部署や公共施設、民間事業など幅広いところにチラシの掲載依頼のほか、私共の室は各種SNSも活用しておりますので、そこで引き続きPRをして、事業周知の強化に努めていきたいと思えます。

【質問3】

(資料1 項番26) 令和5年度の実施状況の部分で、DVの防止啓発とかSNSで公開しているという記載あります。具体的にはSNSの媒体は、何で公開されていますでしょうか。

【事務局回答】

DV防止の啓発動画をユーチューブで公開しております。そのユーチューブで動画を作成したのでご覧くださいという周知を、室のインスタグラム、エックス及びフェイスブックのほうで周知をさせていただいております。

(議題2) L G B T理解増進事業について

事務局より、資料3について説明。

【質問1】

パートナーシップ制度の現状が4月の時点で7組ということで、前回もお話しされたときも7組となっていて、そこからまず増えていないという現状が一つと、そのことに関して、前は市のメリットとかそういうことがないからなかなかいないんですというお話を伺ったんですけども、そのときに記念とか、何かそういうので申請されている方もいらっしゃるというふうに伺っていたんですね。

メリットと記念としてやることは全く話が別のもので、市としてはメリットを推して制度を使う方を増やしていきたいのか、それともこういう人がいるんですよという付き合いの記念日とか、何か一緒になった記念日みたいな、ただその記念日として使うことを推奨していきたいのか、それによってその行動とか結果とか、そういうことが全然変わってくると思うんですが、今後の取組としてどういうことを推奨していく、このまま7組のままでいって、P R I D E指標を宣誓して、レインボー、ゴールドを取ってという形でいくのか、このパートナーシップ制度を宣誓した苫小牧市としてどこの市町村よりも、どこの都市、都道府県よりも、パートナーシップ制度というものを推奨し、市の人たち全員がそういうことに関して理解を求めていくということを目指しているのか、その辺がどうなのかなということをお教えいただければと思います。

【事務局回答】

公共サービスの利用としてのサービス向上の部分は、市としてももちろん努めていきたいところです。ただし、以前もお話しさせてもらったように記念、気持ちということで宣誓されている方もいらっしゃいます。どちらか一方ということではなく、市としては両方進めていきたいと考えているところです。

この気持ちについてですが、宣誓される方たちとお話しさせていただくときに、何かサービスを利用するご予定はありますかとお聞きすると、いえ、そう

ではないんです、苫小牧市にパートナーシップ制度ができたというところで記念に宣誓させていただきましたというようなお話を伺うことができました。

さらに、こちらは市内の方ではありませんが、宣誓されたときにおめでとうと言ってもらえたことがとてもうれしかったというようなお話もありました。

苫小牧市は男女平等参画都市を宣言していることもあり、性別にかかわらず、自分らしく生きていくことを推奨するというところでの気持ち、その尊重に努めていきたいという一方で、公共サービスの部分でのサービスをさらに追加していきたいところでもあります。そういったところを推奨していくことで、より利用したいと思っていただけるような制度にしていきたいと考えています。

P R I D E 指標について、この取組を進めるに当たって、皆さん、L G B T について理解したというように言われる一方で、自分たちが何をしたいかわからないということも伺います。その行動の内容、項目について、このP R I D E 指標、約60項目ある中で、自分たちは何ができるかというところを具体的に考えるための手段として、このP R I D E 指標を進めていきたいと考えているところです。

【質問2】

資料3の最後のほうに、「企業、市職員をターゲットとする」と書いているんですけど、先ほどのP R I D E 指標の説明もお聞きしていたんですが、私たち普通に一市民として具体的にどういうことをするのかなど、もし決まっているようでしたらお知らせいただきたいです。

【事務局回答】

L G B T 理解増進事業は、苫小牧市内でまだL G B T に対しての理解が進んでいない状況から、少しでも理解を深めていきたい、そのような事業となっております。その意味では、市内にある企業や市民の皆様、そのような方はもちろんターゲットの一つとなっております。また、それだけではなく、市職員も自らL G B T の理解を深めていくことや、市役所がL G B T に対してフレンドリーな組織になっていけるような事業の内容としておりますことから、すべてからその辺りがターゲットになるものと考えています。

【委員】

すみません、ターゲットという言葉当てているんですけど、例えば市職員に通常、何か広報紙のようなものを配って、こういうことがあるんだよとか、そういう月間があるよとかならいいんですけど、このPRIDE指標のところのこれ、全部目標的な言い方ばかりになっているものだから、じゃあ市役所の職員はそのLGBTに対する考え方が、こういうように勉強してとか、そういう時間を持って、だから市民の皆さんがいらしたときに、より深く関われるとか、そういうものがあるのかなと。もうちょっと具体的に聞いてもいいですか。この、ただターゲットにするのは、何かターゲットという言葉自体が何か打ち落とすみたいなイメージなので。もうちょっと聞かせていただくと。

【事務局】

失礼いたしました。ターゲットという言葉については、便宜上使わせていただいております。

今回、市職員向けについての取組を一つご紹介させていただきますと、職員向けのガイドラインを作成しております。職員からカミングアウトを受けた場合はもちろんのこと、市民の方で対象となる方がいらっしゃる場合、相談窓口として私たちの部署がご相談をお受けするなど、そのような在り方についてもガイドラインに定めております。市職員向けの取組としては、そのようなことが現在の代表的な取組として考えております。

【委員】

もっと具体的に何をしたらいいかというのがまだ見えてきていないようなので、例えばこの場でどういったことをするかということ話し合うのも一つの手じゃないかなと思ったりしています。

私どもの所属している委員会では、今年度から、すごくレベルは低いかもしれないんですけど、幼稚園に入って行って、そういった関係の絵本を読むとかというようなことから始めていこうかなと考えているんですけども、この場でもう少し、皆さんいらっしゃるし知識もあると思いますので、具体的に市役

所の職員向けだけではなくて一般的にどういった働きかけをしたらいいのか少しお考えになっていくのも一つの方法じゃないでしょうか。

【委員】

子供たちが小学校とか中学校とか高校で悩んでいるというのは、やっぱりよく聞くんですね。なので、その子供たちを見守っている職員というか、先生方の理解もちゃんと深まるような形でそれを推し進めていかないと、子供たちはいろんなことを、今ネットでもいろんな知識も得たりとかはあるんですけど、先生方自体が昔の考え方の感じで止まっているということも結構やっぱりあるんですね。突然、例えば悩んでいる子がいて、どんなふうに声をかけたりしたらいいか悩まれる方もいらっしゃるという場合もあつたりするので、やっぱりその子供たちを取り巻く大人たちに対しての研修ですとか、そういう理解を深めるような場をつくっていただけたらいいのかなと思いますし、例えばさっき言っていたように、保育園だとか幼稚園だとか、小学校、中学校、高校の年齢とか学校に合わせた推薦図書みたいなものを図書室に置くとか、そういう何かLGBTのことを学ぶ、総合の学習の時間だとか、そういうときにこういう本を使えますよと勧めたりというのもありなのかなと、ちょっと思いました。

【委員】

ちょっと話は変わるかもしれないんですけど、先ほどPRIDE指標ということで説明を受けたときに、Dの中でどんな性別の人も使える更衣室などをつくる予定だというのを書いていたんですね。これはいろんな意見があつて、いろんな考え方があつて、じゃあ、誰でも使えるとなつたときに、例えば普通に女性が入っていました。その後に誰でも使えるからといって異性愛の方、要は普通に男女で結婚される方の男の方が入ってきた。そのとき、対応がすごく難しいと思うんですね。

どなたでも使えるトイレや更衣室、例えば男女を分けないような場所をつくるという考え方はとても素晴らしいと思うんですよ。それは差別がないということなので。なんですけど、そこの線引きは物すごく難しく、じゃあ、ぱつと見、女性の服を着ているから女性だって人はみんな判断する、でも、実際はそうじゃないのかもしれないという、その裏の面を見ていかなきゃいけない

ってしまう場所になっちゃうと思うんですよね。この誰でも使えるとは、一律に簡単に説明できない場所。例えばお手洗いで、男女のお手洗がある中で、車椅子の方とか、あと人工肛門とか使われている方のお手洗があると思うんですけど、じゃあ、そこと誰でも使えるお手洗とか更衣室というものの線引きは、じゃあ、どこでするんですかということになったり、更衣室も男女で今は分かれているけど、誰でも使えるところという、その線引きですよね。それはすごく難しく、すごくグレーなところで、それを一般の方とかいろんなところで働いている一般企業の方とかに理解してくださいというのは、すごく難しいと思うんですよ。ふだんの生活の中でそこまで気にして生活できないですよ。私もそうです、そこまでは絶対にできない。できないけど、でもやろうとしていることがもしそれに近いということであれば、もうちょっと簡単に、どんな人でも使える場所を使えば、それは偏見じゃなく平等なんですよという割り方というか、それだと市民の方に理解を深めるということに関してはどんどん難しくなってしまうのではないかなという印象が私的にはあるんですよ。

平等が正しくて差別をしないのが正しいということではない。どこかで、偏見じゃないですけど、線引きの差別をしないといけない点というのは必ず世の中にはあると思うので。区別ですね。区別をつけないといけないところがあると思うので、そういうことに関してももうちょっとやっぱり掘り下げてお話をしていかなきゃいけないのかなとは思っています。

【委員】

ちょっと話が戻っちゃうかもしれないんですけど、先ほど小・中学生から悩んでいる子がいて、でもそこが大人、教員、職員とかがなかなか受け止められていないんじゃないかというお話が出ていて、さっき、これまでのちょっと資料を見たら出前講座を確かやっていて、学生、若年層向けに。そのときに職員とかも参加しているのか、本当にそこは分けて学生だけなのかというのをちょっと思いましたし、切り離してまで大人向けの出前講座もあってもいいと思うんですけど、まず、学生がやっている出前講座へ先生方とか職員も何か参加できる環境、取っかかりみたいな形でできれば、それも一つの方法かなとは思っ

たんですね。

あと、このターゲットで、何か狙い打ちみたいなイメージがあって、私もそういうイメージで読んでいたんですけど、この企業、市職員をターゲットとすると書いてあって、ただ、今の現状の取組を聞くと、基本的に市職員に対しての、市なので、まず、市職員に対しての取組というのがあって、それで、そこで市民の方と関わるような市職員に向けてというのがこのメインなのかなと思ったんですけど、ただ、それだけでは企業のほうにはちょっと行かなくて、子供たちが大きくなって就職するとか、いろいろ社会生活する中で企業とも関わってくるので、現状だと子供が出前講座とかそういう話を聞いたり学ぶというのがあっても、その子たちが大きくなるだけではまだまだ進まないかなと思うので、やっぱり企業に対しても何か、今すぐじゃなくても何か関わられるようなものがあつたらとは思うんですけど。じゃあ、何があるかと言われても、すぐにはちょっと出ないんですけど。

【委員】

単位を小さくすることで理解できるものはあると思うんですね。例えば会社の中で、この人は精神的にこういうことだから、例えばこういう利用を許しましょう、こっちの会社では、こういう人はこうだから、こういうことまでは許しましょうと。これが例えば一般市民も含めて公共の場で物事を考えるから、この人、大丈夫なのかなというのを含めてやっぱりそういうものをつくるとか考えるとかとなったら大変ですけど、まずはできる単位を小さくする中で、会社単位の中でそういう方がいるのであれば、まずその会社で、もしくは市役所の中で、市役所の担当課の中で考えてみるとか、そういうところからのスタートで少しずつ広めていく方法でないと、もう一遍に市民の方全員でこういうものをつくりました、理解してくださいといっても難しいのかなと。目に見えない問題に関してはやっぱり時間のかかることなので、何かキャパを小さくして考えてやってみるというのも一つの方法かなとは思いますが。

【委員】

大きなことはできないけど、今の私にできることは何だろうと考えてみたんですね。それで私、ある協議会の会長をしているものですから、年に1回、講

演会をやっているんですよ。そのときにこのLGBTについて皆さんにお勉強してもらいたいなど。そうすると、360名いますからそこに配偶者がいたりお子さんがいたりお孫さんがいたり、あるいは現職で企業に勤めている方もいらっしゃるのでは、苫小牧全市から集めていますので、ちょっと浅くなっちゃっているかもしれませんが、広く皆さんに周知できる手段かなと思ひまして、早速9月にLGBTについての講演会を実施します。本当に小さな試みですけど、一人一人が自分、今の市に対してああしてください、こうしてくださいももちろんなんですけど、今の自分で何ができるだろうということを多くの皆さんが考えることによって、少しでも大きなことができるのかなと考えました。

【事務局回答】

今の話題で、最後に私のほうから少しご説明させていただきます。資料3の目的のところ、2行目の後半から3行目にかけて、多様な性の尊重について理解の増進を図ることが目的となっております。このターゲットという言葉がどうかというところは正直ありますので、ここの表現の仕方が少し不足だったと、今、感じています。この表現のところではいいかと、2行目の、子供から大人まで幅広い層の市民の理解を目指して、まずは多様な性の尊重に関する取組を実施したいと考えて、企業、市役所職員から始めるという表現が、今の議論をお聞きすると適切かと思ひましたので、ここは後ほど我々のほうで修正させていただければと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

引き続き、LGBT理解増進事業につきましては皆さんの忌憚のないご意見が我々としても助かりますので、今回の審議会の場面に限らず、担当のほうにご連絡いただければ大変ありがたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

(議題3) その他

事務局より市実施の下記事業について説明。

- ・ 女性のためのつながりサポートとまこまい (女性用スーツレンタル事業)
- ・ 防災研修の案内

【委員意見・感想】

- 先ほどのLGBT理解推進事業の件でございます。ターゲットは、ビジネス的とか内部資料とかでは一般的に使われているものでございまして、私もよく使うんですけれども、本件の場合、そのターゲットの対象者が幅広い市民層と、やはり企業、市職員とか、ある程度組織化された対象で大きく言えることは変わってくると思いますので、分かりやすくここを分けて記載していただいて、周知啓発活動、講演会、研修等々もその対象者によってやること、発信する内容というのも大きく変わってくると思うので、分けたほうが分かりやすいかなと思いましたので、意見とさせていただきます。
- 本当、全然外れちゃって申し訳ないんですけど、私、この資料2を読んだ中ですごくいいなと思ったところなんですけど、26番ですね、3ページの。市男性職員の育児休業取得者の割合というところなんですけど、伸び率がすごいですよね。素晴らしいと思うんです。それで、私の身近の職員でも本当に同じ時期に2名、3か月の育児休暇と1か月の育児休暇、もう普通に取っている若者がいるんですね、身近で。いや、素晴らしいなと。これ男女平等参画にとって素晴らしい出来事だと思うんですよね。普通、育児といたら、もう女性の仕事、おしゅうとめさんに、おしゅうとさんにちょっと手伝ってもらってみたいな、そんな感じだったんですけど、やっぱり配偶者、男性が積極的に育児に参加する。どうしてかと思ったら、職場がそういう雰囲気になっているという、当たり前が取れる環境にあるから取りやすいという話も聞きました。

それでたまたま私、安平町の役場の職員に知り合いがいたものですから、いや、そっちはどうなのと言ったら、いやいや、丸々何か月も育児休暇を取っている人は一人もいないというんですよ。苫小牧市はすごいですねと。強いて言うと半日とか、あるいはお子さんの送り迎えの時間だけとか、そういうだけの人はいるけども、丸々1か月、3か月も育休を取っている人は私は知らないと言われて、いや、やっぱり苫小牧は素晴らしいなとすごく思いまして、ますますこういった感じで、まずは市の職員といたって、2,000人

でしたか、数が多いですね、企業に比べて。やっぱり市の職員が積極的に
そう見本を見せることによって地域にも広がっていくのかなと感じたもの
ですから。何でもいいと言われたので、最近感じたことを話させていただきました。